毎月1回20日発行　　（昭和31年3月28日第三種郵便物認可）

やまと博物館

編集責任者　大町山岳博物館

白い山脈

＝北アルプス記録映画＝

大映日本アルプス撮影隊の長篇記録映画〝白い山脈〟は、本館を基地にいま完成をいそいでいます。雄壮な北アをバックに、高山の動植物の生態をとらえること 1年、よく大自然の動きを天然色で描きだしています。封切は来年の 3月で大きな期待がよせられています

NO. 11　1956年11月20日　大町山岳博物館後援会 発行

北アの生きものたち

静かだ、実に静かだ、はてしなく拡がる雲の海、薄紫に彩どられ、金色に輝やいて。ぽっかり頭を出しているのは富士山か、前方にはにかんだように浅間山の噴煙が見えています。彼方には御岳、乗鞍駒岳、それに続いて穂高岳、槍、白馬岳、日本アルプスの山脈は、自然の女神にもにておだやかに、時には一瞬生命をうばう厳しさをもって、数知れない生命をはぐくんでいます。山脈に育てられる生きものたちにも、人間の社会と同じように、苦しいことや悲しいこと、或は楽しいことがあることでしよう。

今村貞雄氏を隊長とする撮影隊では、この生きものたちの生活を天然色のフイルムに描き出そうと苦心を重ねています。新雪に輝やく白い山脈を仰ぎながら、佐藤監督はしみじみと語っています「残念なのは北アにはとくに珍らしい動物がいないことでした、しかしこのようなありふれた動物の生活をこまかくカメラに捉えたことは自慢してよいことです」ありふれた生きものの生活も、厳しい自然の掟（おきて）に従って、我々の知らない世界で、驚きに充ちた様々の生活を繰りひろげています。

撮影のひととき、すでに新雪におおわれた山脈は、はなやかだつた夏の装の跡もなく、活動していた生きものたちも、もう冬ごもりも終つている。【写真は烏帽子岳より槍ケ岳を望む】

山脈の早春

立山連山は白い山脈の名に恥じず、今日も雪煙が舞いつづけています。別山山頂の緑のハイマツも、折り重なった岩壁も水晶の氷雪にきらめいています。この神々しい純白の装いに、朱の冠毛をいただいたライチヨウが三方に開いた足跡を点々と雪上に印してゆきます。地獄谷では地表のあるかなきかの小さい孔から間けつ的に白煙をあげて、あたりは亜硫酸ガスや硫化水素が一面だだよっています夕陽を背にして、幾条も幾条も青空に立ち昇る噴気は、大地の鼓動であり、大自然の息吹のようにも見えます。

木枯しの中に餌を貯えるのに忙がしい、リスの撮影、彼等はカメラマンも監督さんも目に入らないよう【写真は鹿島岳山麓にて】

陽春の日ざしを受けたブナ林、幹の周囲の雪はいち早く消えて、一米以上の深さになつている【写真はブナ林を通して白馬岳を望む】

三月もなかば過ぎた立山連峰では山麓や中腹の雪原にも春がしのびやかに訪れ始めます。一の谷沢の滝も、厚い氷のベールを破ってとうとうと水を落しています。滝の傍の洞穴の中ではキクガシラコオモリやコキクガシラコオモリが冬眠から覚め、岩天井をとびながら求愛の羽ばたきを交しています。地表はまだ深い積雪の下にあって、若草も木の芽も見えない白一色、深い渓谷の岩壁に生えた老樹の枝ではこの谷の住人であるクマタカが、永い冬の食糧不足にあえいでいます。樹の根元の凹みまでまどろんでいたエチゴウサギは、用捨ない食欲においたてられて雪原に飛びだしてゆく。あの丘、この丘の雪原にきざまれた美しい春の縞模様の彼方へ、足跡ははてしなく続いてゆきます。冬眠から覚めた可愛いヤマネがちよろちよろ雪穴から首を出して、まぶしげに外界を見廻しています。

目覚める動物

山腹を包んでいた雪も谷間に残るだけとなり、その繁が新緑で彩られ始める頃、巨木の根本には長い眠りから覚めきれずにいる母熊の乳房に兄妹の仔熊が無心にしやぶりついています。やがて母熊はのっそり穴からはい出て、新鮮な空気を心ゆくまで吸いこむ、続いてはい出した仔熊も初めての体験であろう、雪の上を恐る恐る歩んでいく。桜花が咲き乱れ、花越しに見える爺岳や鹿島槍も心なしか春めいています。小川の底ではスナヤツメが産卵し、傍の水面ではタガメ、ゲンゴロウ、フナなどが春の営みに忙しく、クロサンショ

雛の哺育にせつせと餌をはこぶサンコウチヨウの雄、彼等は夫婦で交代に餌をはこぶ。

ウウオは水中に産んだ卵につききりで見張りをしています。どこからか集まるモリアオガエルは新緑の葉かげで産卵をはじめています渓谷にそった原生林はすっかり初夏の色彩で、アカゲラが赤い冠毛の頭を振り振り忙しげに幹を穿っています。このかん高い叩音こそ夏の開幕をつげてくれる音なのです。

夏のよろこび

ノハナシヨウブの咲き乱れる水辺、一面茂ったヨシ原ではオオヨシキリの雛が運ばれてくる餌を待ちうけています。紺碧の夏空に白い入道雲が湧き立ち万年雪の嶺近く高山植物の色とりどりな群落が展開されています。花から花へ飛び廻る昆虫のむれ、残雪の白馬岳を望む河原ではイソシギやコアジサシが雛を育て、タヌキ、アナグマ、キツネ、或はハナグモ、トンボの昆虫類まで山脈にはぐくまれる大きな命も小さな命も、みな生命の喜びにひたりきるのです。

赤土のがけに小さな穴が2個3個中には美しい色のカワセミが7、8個の卵をあたためている【写真抱卵中のカワセミ】

秋の朝、オクビヨウそうにキツネが顔を出した【写真はキツネ】

飛しようのニツコウムササビ、けものでありながら、前服と後服の間に出来たひ膜によつて滑空する【写真は上高地にて】

実りの谷間

どこまでも続く林構にオナガが朝の陽をあびて彼等の楽しいひととき【写真は構のオナガ】

秋色ただよう秋の空、嶺から色ずいた紅葉は、山麓の残雪に融けこんで、南へ渡る鳥の姿も寂しく感じられます。山脈は短い夏を終って、冬への準備を急いでいます高山の草原には、コケモモ、クロマメノキ、ウラシマツツジなどの紅や紫の実が熟し、山麓にはヤマブドウ、クリ、ドングリなどが色づいてきます。樹の上にある巣までよじのぼっていくニツコウムササビ、ツキノワグマはクリの木に熊棚をつくって盛んに実を喰べています。向うの枯木に腰をおろして熱心にシイタケをかじっているのはニホンザルの子供でしょうか近くに大きな猿の群がいるに違いありません。リスの夫婦は木の幹を忙しく上下して冬ごもりのドングリを運んでいます。ヒメネズミが用心深く樹の根もとから出てきて、熊ののこしたクリの実を拾っています。しかし油断はできません、数米はなれた岩かげにイタチがねらっているのです。さっと影がすぎたと思うと、くち木のかげにかすかなヒメネズミの悲鳴が消えてゆきます。彼等の世界では油断は死そのものを意味するのでありましょうか。山嶺の池に氷がはる頃、ライチョウは再び白衣にきかえ、カモシカの毛なみはふさふさした冬毛に替えられてゆきます。数回おそった降霜に錦の谷も見るかげもなく、木枯しによって吹き落されるブナの葉は澄みきって底までみえる渓谷のふちに、一葉また一葉と消えてゆきます。日増しに白さを加えて行く山頂に新雪の吹雪がすさんで、白い山脈は冬の休息に入るのでありましょう。今日も雪が降りつづいています。

【動物園だより】 人気をあつめている子熊の太郎はこんなに大きくなりました。毎日園内をとびまわっていますが、陽向ぼっこにはバケツの行水がつきもの、お尻を入れて気持よさそうです。
もう山では仲間の熊たちが冬越しの準備に忙しいというのに、太郎はなんの心配もありません。真白にかわった向うの山々をみて、感慨深いものがあるようです。

好評だった文化財展

1日から開いた第1回市内文化財展覧会は、連日の好天に恵まれて大ぜいの市民が観覧しました5日間の入館者は全部で7千人を越え中でも子ども連れの婦人がめだちました。こんど行われた展覧会は市内の重要文化財を陳列、解説したもので、博物館としては今までにはじめての企画でした。郷土の文化や歴史を知るうえに参考になるというので大へんな好評をよびました。博物館ではこの開期中、郷土史年表を発行し、更に文化財保護の重要性をよびかけました。天然記念物の部では生態写真、生態陳列それに動物園の〝かもしか〟の岳子ちゃんなども加わった總合展示が行われ、家族づれの市民に喜ばれていたようです。

【写真は文化財展示会場】

博物館後援会員募集

博物館後援会の会員を募集しています。年額千円を納める団体ならびに、年額三百円以上を納める個人を正会員といたします。会員には次のような特典があります。

1、博物館の諸指導行事を通知し参加の便をはかる。
2、毎月〝やまと博物館〟を配布する。
3、団体には講師、指導者派遣の求めに応じる。
4、博物館に支障のない限り、博物館の資料（標本、図書、写真、図版等）器具の借り出しをあっせんする。
5、その他博物館で種名同定、研究指導など諸種の便宜をうけるあっせんをする。
6、いつでも博物館を無料で観覧できる。

（今月の寄贈） ホンシウモモンガ1体　大町営林署、ヘビ（幼体）1体　大町市神栄町小林次郎、ヤマシギ1体　大町市六日町高木四郎、キジバト1体　昭電第一社宅高橋幸男、イシガメ1体　明科町七貴田中利貴、糸引車2台　大町市八日町桜井幹次、イシガメ1体　大町市八日町曾根原正義、ノウサギ（幼体）1体　大町市社館ノ内原充平、イシガメ2体　大町市東町上条直人、カケス1体　大町市社松崎腰原英治、ヤマネ1体　熊谷組中茎千尋、ツミ1体　大町市白塩町本間幸江、　**（敬称略）**

おしらせ 本紙の購読を御希望の方には実費 1部10円でおわけします。但し遠方の方は郵送料の実費をいただきます　**大町山岳博物館後援会**

山岳会

＝東京野歩路会＝

創設は大正11年、翌年大震災で解散したが、直ちに再建した。昭和20年戦災で再び解散、在京の有志でふたゝび再建にとりかゝり、わずか10カ月で2,000名の会となった。山の良さを理解し、会員同志がみんな楽しめるようにと、最初から会長はおいていない。塚本閤治、酒井菊雄、福原健司の諸氏を中心に、山の講演会、映画会、登山相談、山岳展覧会などを開いて会の動きは活潑である。毎月、山とスキーの映画会、山に親しむ会、スキー学校などを開く。バッヂは山、雲、木の図案に野歩路会のNBKを配したもで、本多月光氏の作。事務所は東京都文京区駒込上富士前町。

全国山岳会の皆さんへ

このたび昨年に引きつづき、全国山岳団体のバッヂ収集にあたつて、心からの御協力をいたゞきましたことを厚く御礼申し上げます。おかげをもつて東京、広島、愛知、岡山、兵庫埼玉、群馬、静岡、福岡、三重、青森、福井、神奈川、大阪佐賀、京都、鳥取、愛姫、和歌山、石川、岩手、香川、熊本岐阜、新潟の各都府県から沢山の寄贈をうけることができました。また當館の運営について種々懇切な御教示をいたゞいたことを感謝申し上げます。ますます御期待にそうよう努めたいと思いますが、今後ともよろしく御指導のほどお願いいたします。

大町山岳博物館

【博物館だより】 10月19日市内文化財調査開始、20日第2次雨量計撤收作業、やまと博物館10号発行、22日文化財展示計画打合、23日山岳写真撮影会、郷土史年表発行、24日—31日山岳と文化財展の準備作業、全国山岳会第2次バッヂ収集、館員会、11月1日—5日山岳と文化財展、6日付属動物園移転計画、7日文化祭反省会、11日博物館建設推進委員会、13日館員会、12日—13日居谷里調査（動物、植物、気象）14日—17日全国博物館大会参加（平林学芸員）18日山の歌集〝山びこ〟2集発行

かもしか捕獲許可おりる

申請中だった天然記念物かもしかの捕獲許可が10月下旬、正式に文化財保護委員会からおりました。こんどの捕獲は2頭で、捕獲については県の教育委員会の指導をうけることになっています。博物館では新館の付属動物園に約300坪ほどの自然園を利用して、来春からかもしかの夫婦を迎え入れようと慎重に計画をたてゝいます。

編集後記 北アルプスは連日雪が降りつゞいている。16日の市内は積雪5cm、今ペンをにぎっている間もさかんに降りつゞく。今年になって平地での初雪だ。▲この雪が積もりに積って、また白い世界にはいる。2月から撮影中の〝白い山脈〟は今月でほとんど撮影を終る。北アルプスではじめての長篇記録映画だけに、その完成が今からまたれる。本号は斷片的にその解説をのせた。▲雪は、そして山は、われわれに大きないくつかの贈りものをした。われわれはこの山に、生きている限り、尊敬と感謝の気持をもちつゞけたいと思う。▲新館の完成が近づいている。来月はいよいよ移転の開始である。春がくるまで、じっくり準備に努めたいと思う。

やまと博物館　No. 11　1956.11.20発行
編集発行人　大町山岳博物館
発行所　大町山岳博物館後援会
長野県大町市神栄町電話211番
印刷所　信州印刷株式会社